



神戸常盤大学

キャンパスレポート

2018.6
No.57

建学の精神

広く学術の基礎となる知識及び技能を授けるとともに、深く専門の学問及び技術を研究・教授して、知的、道徳的に優れた技術者を育成し、また成果を社会に還元することにより、国家及び地域社会の発展に寄与すること。

www.kobe-tokiwa.ac.jp/univ/

神戸常盤の「これから」

学長 濱田 道夫



ゴールデンウィークが明け、キャンパスのメタセコイヤの緑が勢いづいていくのが感じとれる季節となりました。

昨年の秋、これまでの地域活動の経験が実を結び、本学の新事業「地域子育てプラットフォームの構築を通したAll-Winプラン」が文部科学省の平成29年度「私立大学研究ブランディング事業」に採択されました。この5月8日には事業のセンターとなる子育て総合支援施設「KIT」が、新長田の大正筋商店街にオープンしました。開所式に先立ち、関係のスタッフは準備に大忙しでした。せっかく獲得した大きなチャンスです。これを追い風にして、教職員、学生が一体となって本学のいっそうの特色化、個性化に知恵を出し合えればと思っています。

ところで、2018年は本学にとってさまざまな意味で節目の年になっています。まず、学校法人玉田学園の創立110周年にあたります。そして、本学が当時40年の歴史を持つ短期大学を包含し「神戸常盤大学」として開学してから10年目を迎えます。また、上述のブランディング事業が始まる一方で、秋にはネパールとの交流20周年の記念事業を「健康ふれあいフェスタ」(10月7日)と同時に開催することになっています。

“伝統を守り伝統を創る

「これまで」を決めるのは「これから」

これは本学園110周年を迎えるにあたり、教職員・学生より公募され、選定された節目を飾る言葉です。実学教育のため地域の人びとの熱意から生まれた本学園の精神を、将来に向けて豊かに育んでいこうという気持ちが込められています。

近年、いたるところで大学の教育改革が叫ばれ、中長期計画の策定のなかで大学の将来像とか大学の理念、あるいは目指すべき大学像が盛んに議論されてきました。同様に本学では、重要な指針となる言葉がこれまでに語られてきています。「いのちに寄り添い、いのちを支える専門職業人の育成」、「知性と感性を兼ね備えた専門職業人の育成」そしてブランディング事業の開始とともにより明確になった「地域と歩みを共にする大学」がそれです。このように、建学の精神をいまに生かした本学の「目的と使命」はすでに描かれていると考えています。しっかりと目標を見定めながら、キャンパス一体となって、神戸常盤の「これから」を創っていきたいと思います。ご協力をお願いします。

子どもの成長のために大学と地域ができること

平成29年、本学は文部科学省の「私立大学研究ブランディング事業」に採択されました。これは、文部科学省が、独自の取り組みや研究をしている私立大学に対し、様々な支援をする事業で、兵庫県内において採択されたのは本学だけです。

本学は、小さい大学ながら学生一人ひとりの教育的ニーズに応え、手厚い指導に努め、学生の学びと成長を丁寧に見守る大学を目指しています。また阪神・淡路大震災で最も被害の大きかった神戸市長田区に所在する唯一の大学として、地域の復興を支える中核的役割を果たすことを追求してきました。

開学110周年を機に、地域とこれからの未来を支える子どもたちの豊かな成長のために、大学ができることは何か？私たちがたどり着いた答えは、「地域子育て支援」でした。子どもたちの成長に寄り添うお母さんやお父さん、お爺ちゃんにお婆ちゃん、さらには地域のおじちゃん・おばちゃん。そんな子育ての主役たちの頑張りを、研究という側面から支援するのが「地域子育てプラットフォーム」です。

「地域子育てプラットフォーム」は大学と地域が一体となって、子どもたちの豊かな成長を支え続けるための土台です。研究者や市民がぶらっと立ち寄れる拠点と言う意味もあります。具体的には神戸市長田区アスタくにつか4番街に教育・保健医療の機能をもった子育て総合支援施設「KIT」を立ち上げました。

KIT(きっと)は地域の子どもの育ちを総合的に支援する施設です。KITは、子育てを支援する「えん」、小学生の学びを支援する「てらこや」、地域の方の交流の場となる「コティエ」で構成されます。これら三つの施設の機能がひとつの場にあつまること、世代を超えた人の交流が生まれ、地域の未来を拓く力となっていきます。同時に、元町六丁目商店街にも子育てを支援する「ときわんモトロク」を立ち上げ、子育て交流の憩いの場を提供しています。

KITには、地域の子どもたちや地域の人々、そして本学の学生や教職員が集まってきます。そこでは、世代や性別、文化の違いを超えた交流が生まれます。これからKITや「ときわんモトロク」においてどんな事業が展開されるのか、楽しみにしてください。



テープカット



久元市長と学生スタッフ

地域子育てプラットフォームのロゴマーク

繋がる“輪”をイメージしました。KOBE TOKIWAの『WA』は、「和」、「輪」といろいろな「わ」を連想させます。まずは一番近くにいる人と手をつなぐことで、「想い」だけでなく、強い「力」も伝わる。そして、みんなの「願い」もつながって欲しいという気持ちをこのロゴマークに込めました。



ミンナ デ コソダテ
地域と学びを
共にする大学 神戸常盤大学

〈ホームページ〉<http://kit.kobe-tokiwa.ac.jp/>

目次

学長挨拶	1
子どもの成長のために大学と地域ができること	2
新入生を迎えて	3
1年担任紹介	4
クエストエデュケーション西日本合同発表会	
新任の紹介	5
1年を振り返って	6
実習体験記	7
学生自治会長あいさつ	
ネパール交流20周年の歩み	8
本学発ベンチャーの紹介	
研究ノート	9
2018年度学外オリエンテーション	
金沢会場でスクーリングを開講(看護学科通信制課程)	
ときわ幼稚園通信	10
同窓会だより	
歯科診療所のご案内	
オープンキャンパスのお知らせ	

新入生を迎えて



副学長
保健科学部 学部長
鎌田 美智子

新緑に覆われ花々に囲まれたキャンパスに、また始まりの季節が巡ってきました。いつも思うことですが、この花や木には目に見えない時計が内蔵されているのですね。その針は暗黒の時間を刻み、一定の時間を経た時に一齐に開花する…。この間はまさに真っ暗闇の孤独な時間だったに違いありません。しかし待てば必ず花の咲く日が用意され、巡ってくるとは…。

さて新入生の皆さん、いよいよ大学生活のスタートですが、皆さんもこれまで過ごしてこられた時間を大切に、新しい時間を積み重ねていただきたいと思います。

本学園は、今年百十周年をむかえます。この長い歴史にこれからは皆さんを加え、さらに深く確かな道程となるはずで。昨年より学科を横断した新たな教養科目が開講され、“ときわコンピテンシー”を目指した基盤教育が充実し始めました。これらを通して、学ぶ喜び、知る楽しさ大いに満喫してください。

また本学は二学部三学科、短期大学部共に専門職の育成を目指しています。今や我が国は超高齢化と少子化社会の真ただ中であり、専門職にはそのニーズに的確に対応できる力が求められています。このためには、それぞれが独立した機能と役割を果たし、かつ協働し、その総和以上の力を発揮することが必要となります。

本学で豊かな基盤教育と確かな専門教育を学び、各学科共に“学びの絆”を深めつつ、知性と感性、そして連携力を備えた専門職を目指してください。



教育学部 学部長
こども教育学科 学科長
大森 雅人

こども教育学科にご入学の皆さん、おめでとうございます。皆さんをお迎えできたことを、心より嬉しく思います。いよいよ学生生活が、始まりました。これからの4年間、主体的に学びを重ねていかれることを期待します。

5月8日、子育て総合支援施設「KIT(きつと)」がオープンしました。ここには、子育て広場「えん」、学びの広場「てらこや」、地域交流広場「コティエ」の3つの場があり、小学生や未就園児と保護者(家族)、そして地域の方々が集ってこられます。この施設は、本学科の皆さんにとっては、子育て支援への貢献、小学生の学びのサポート、地域の方々との交流といった貴重な経験ができる場となります。その経験は大学での学びを、より豊かにします。

この施設以外にも、豊富な機会があるので、学生の間にもひとつでも多くの経験をされることをお勧めします。皆さんの頑張りを、心から期待いたします。学科教員一同、全力でサポートします。



保健科学部
医療検査学科 学科長
坂本 秀生

新入学生の皆さん、神戸常盤大学へようこそ。

大学は社会へ出るまでに皆さんが獲得した貴重な4年間です。曖昧なまま日々を過ごしていると、貴重な4年間があったという間に過ぎます。有意義な4年間にするため、なりたと思う自分の希望を言葉として声に出してみましょう。言葉には力があるので、特に前向きな志向を言葉にすると効果的です。

どうせ言葉にするなら「…たい」と願望のような表現ではなく、「…する」と積極的な表現がよいでしょう。「…たい」はあくまで願望で、受動的な姿勢になってしまいがちです。それに比べ「…する」は能動的な発想なので、実現するために何をしたらよいか考えるから。

神戸常盤大学には皆さんの希望を叶える環境があり、皆さんを支える教員と職員もいます。せっかく皆さんが獲得した貴重な4年間、大学に入学した今の新鮮な思いを言葉にし、希望を叶えて明るい未来への扉を開けましょう。



保健科学部
看護学科 学科長
長尾 厚子

看護学科では90名の新入生の皆様をお迎えし、新しい息吹を感じております。新入生の皆様は、入学早々の4月の下旬に「看護活動基礎実習」で主たる6施設の病院で4日間の実習を体験し、患者様を中心とした多職種とのチーム医療の実践、退院支援調整、地域連携等、まさに地域包括ケアシステムの中核となる病院での看護専門職の役割を学ぶことができ、今後の学びの方向に少し課題が見えたのではないのでしょうか。

看護学科では「いのちを支える確かな知識と技術、豊かな心をもつヒューマンケアのプロ」を目指し、カリキュラムを構築し展開しています。さらに、基盤教育分野での幅広い教養分野の科目をはじめ、「豊かな心」を育み、「ひと」として成長していくための糧となる多くの学修内容を展開しています。

これからも、国民の生命と健康を支える看護専門職への期待は益々大きくなってきています。教育課程内外での学びも含めて、4年間は短いものですが、大人として大きく成長される期間でもあります。有意義な日々となるよう、教員一同支援いたします。



短期大学部
口腔保健学科 学科長
吉田 幸恵

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。ご家族の皆様におかれましても心よりお慶びを申し上げます。

皆さんは口腔保健を通じて人々の健康に寄与するという高い志と、歯科衛生士資格を取得するという明確な目的を持って入学されたことと思います。

本学科の教育課程は皆さんの志を尊重し目的を達成できるよう組まれていますので、最初は聞きなれない用語や新しい事柄ばかりで不安に思われるかも知れませんが、安心して勉学に励んで下さい。

本学科の教員は歯科医師や歯科衛生士としての経験が深く、科目の担当者であるだけでなく、皆さんの良き相談相手として全力で皆さんをサポートしていきます。

また、大学では学業だけでなく部活やサークル活動で学部・学科を越えた交流やボランティアや地域活動での社会体験などを通して、多様な価値観を持った人に出会って欲しいと思います。専門職をより生かすために多くの人と出会い、「人間力」を身につけることにも挑戦して下さい。

さあ、夢の実現に向かって共に歩みましょう。



短期大学部
看護学科通信制課程 課程長
金川 治美

木々の新緑が目鮮やかな季節の中、すでに始まっているスクーリング授業では、戸惑いながらも前向きに勉強しようとする皆さんの姿を拝見し、私たち教員一同はこれから一緒に勉学できることを楽しみにしています。仕事や家庭を持ちながら学問を続けることは簡単ではありませんが、仕事を持ちながら学ぶという事は、苦しいだけでなく学んだことをすぐに実践・検証し、自分の財産として修得することができるという強みにもつながります。通信での学習は、強い意志をもって継続することの困難性との戦いでもあります。悩んだり立ち止まったりすることがあるかもしれません。しかし、皆さんには看護師となって、これまでの経験を活かし看護を实践する、もしくは自分の望む進路に向かうなど、大きな夢と目標があります。これからの大学生活、どうか誠実に一生懸命に学んでいってください。卒業に至るまでの道のりを通信制課程の教職員全員でサポートしていきます。

1年担任紹介

医療検査学科



Aクラス担任
栗岡 誠司
有機化学
無機化学
分析化学実習



Bクラス担任
新谷 路子
解剖組織学
病理学
基礎検査学

看護学科



Aクラス担任
阿見 馨
老年援助論



Bクラス担任
松岡 真菜
まなぶる ▶ときわびとI
療養支援実習II・III



こども教育学科

教員養成コース
山下 敦子
国語
アカデミックライティング
教職論

こども教育学科



保育士養成コース
笹井 隆邦
人類と地球環境
理科
卒業研究



保育士養成コース
柳原 利佳子
基礎研究演習I
発達心理学I
教育心理学



保育士養成コース
大城 亜水
家庭支援論
情報基礎
地域との協働A

口腔保健学科



A/Bクラス担任
上原 弘美
歯科診療補助論
歯科診療補助演習III



Aクラス担任
畑山 千賀子
歯科予防処置論A
歯科予防処置演習AI



Bクラス担任
中村 美紀
歯科診療補助演習I
オーラルリハビリテーション



クエストエデュケーション西日本合同発表会



看護学科3年 **竹原 由梨香**

「クエストエデュケーション」とは全国150校 約2万人の小中高校生が、実在の企業や社会、先人を題材に、答えのない課題に取り組むアクティブラーニングです。

テーマについて仲間と共に話し合い、考え抜き、生み出した成果を、社会に向けて発信する場が「クエストカップ全国大会」です。私は高校生のときに「クエストカップ2013」に出場し、企業探求コースでグランプリを受賞しました。その後、昨年の4月からはクエストの同窓会組織である「Re!Quest」の発足をきっかけに様々な活動を行っています。

昨年末、四国から近畿地方の約400名の中高校生が神戸常盤大学に集いクエストエデュケーション西日本合同発表会を開催しました。私も、関西の

Re!Questメンバーと共にスタッフとして企画・運営に携わりました。

参加した中高生達は発表会で他チームのプレゼンを見たり、審査員からの講評を聞いたりしたことが刺激となり、「クエストカップ全国大会」までのブラッシュアップに励んだと思います。その成果が実り、2月24日に立教大学で開催された「クエストカップ2018」では、グランプリ、準グランプリ共に本学で発表した西日本の中学生が受賞しました。



中高生の視点でプレゼンテーション
(2号館 講義室にて)



参加者全員による記念撮影
(メインホールにて)

新任の紹介

①住所 ②所属 ③専門分野 ④趣味・特技 ⑤好きな言葉



田村 周二

- ①神戸市
- ②医療検査学科
- ③生理検査
- ④身体を動かすこと
(バスケットボール・空手)
- ⑤勝つことは偶然ではない



魚崎 須美

- ①神戸市
- ②看護学科
- ③地域看護学、
公衆衛生看護学
- ④読書
- ⑤未来



江口 実希

- ①神戸市
- ②看護学科
- ③精神看護学
- ④サイクリング
- ⑤病は気から



幸島 美絵

- ①神戸市
- ②看護学科
- ③在宅看護学
- ④サイクリング
- ⑤“Happiness” is something
you feel.



松岡 真菜

- ①加東市
- ②看護学科
- ③療養支援看護学
- ④立位体前屈
- ⑤患難が忍耐を生み出し、忍耐
が練られた品性を生み出し、
練られた品性が希望を生み
出す



白石 奈央

- ①神戸市
- ②看護学科
- ③基礎看護学
- ④温泉、Mr.Children
- ⑤GIFT



大城 亜水

- ①泉南市
- ②こども教育学科
- ③社会政策
- ④DIY、著名人の声当て
- ⑤楽あれば苦あり苦は楽の種



中村 美紀

- ①神戸市
- ②口腔保健学科
- ③口腔機能管理学
- ④野球観戦
- ⑤情けは人の為ならず



横山 麻衣

- ①神戸市
- ②口腔保健学科
- ③口腔保健学
- ④読書
- ⑤為せば成る



丸岡 洋子

- ①西脇市
- ②看護学科通信制課程
- ③基礎看護学
- ④トランポビスク(一人用トラ
ンポリンの上でウォーキン
グや簡単な体操をします)
- ⑤誰かのためにほんの少し
の時間と力を使うことをい
とわない



西森 有理子

- ①東大阪市
- ②看護学科通信制課程
- ③在宅看護
- ④旅行
- ⑤あきらめない



内橋 一恵

- ①神戸市
- ②事務局
- ③文化人類学、昔話
- ④弓道、ウクレレ
- ⑤困難は分割せよ



松田 恭兵

- ①神戸市
- ②事務局
- ④野球、乗馬、カラオケ
- ⑤栄光の華は苦闘の丘に
のみ咲く



利根川 潤

- ①神戸市
- ②事務局
- ④バレーボール
- ⑤一期一会



青木 弥生

- ①神戸市
- ②事務局
- ④旅行、ミュージカル観劇
- ⑤自分らしく、精いっぱい



水谷 綾花

- ①神戸市
- ②事務局
- ④美味しいお店めぐり、
マッサージ
- ⑤笑顔



大保 奈緒

- ①神戸市
- ②事務局
- ④旅行
- ⑤笑う門には福来たる、
棚から牡丹餅



奥永 進

- ①芦屋市
- ②事務局
- ④プラモデル、魚釣り
- ⑤自主自立

1年を振り返って



医療検査学科 2年
松山 奈穂

私にとってこの1年間は、今までの自分の考え方を大きく変えた1年だったように思います。多種多様な環境で育ってきた友達、親身になって指導して下さる先生方に出会い、様々な考え方や選択肢を知ることができました。1年生は臨床検査技師としても社会人としても未熟ですが、そのぶん尊敬できる先生方や同じ目標を持つ友達の感化を受け、自分のポテンシャルや新しい選択肢に気付く可能性を持っていると考えます。この神戸常盤大学で臨床検査技師に必要な知識、技術や社会人としてのマナーを学ぶことはもちろんですが、2年生は自分の考えに固執しない伸び伸びとした大学生活を送り、3年生に向けて理想の臨床検査技師像を確立していきたいと思っています。



看護学科 2年
河村 勇貴

大学生活が始まり、とても充実した1年でした。1年生の授業は、看護を行う上で重要な基礎的な教科が多くあり、覚える量もとても多かったです。テスト期間中は、図書館で友達と教え支え合いながら勉強をし、仲間の大切さに気づくことが出来ました。後期からは演習も始まり、看護師に向けた階段を1歩上がったと感じました。しかし、嬉しい反面、予習をしても演習ではうまく行うことが出来ず、自分の不甲斐なさを痛感しました。そのため、放課後の練習に積極的に取り組むなど努力しました。また、大学祭では「お化け屋敷」や軽音楽部の「ライブ」に出演しました。どちらも放課後に時間を割き練習や準備に取りくんだ結果、成功しました。勉強以外のことにも挑戦したこの1年はとても充実したものでした。2年生では、1年生の学びを生かしてより深い学びにし、勉強だけでなく学校行事などにも積極的に参加し、より充実した大学生活が送れるようしていきます。



こども教育学科 2年
郡司 美紅

この1年は私にとって、「これからどうなりたいか?!」を決めた1年です。私は、昔から憧れていた教育の道に進むために、この神戸常盤大学に入学しました。初めは右も左も分からない状態でした。授業も教育についての専門的な内容で、私にとっては未知の世界です。だからこそ、学びの世界は輝いていました。また、全学科合同の授業で出会った級友たちは、多様な価値観をもった人が多くいて、こんな考え方をする人がいるのかと驚くと同時に、私自身の見聞が広がりました。多くの価値観が交差する中での交流は、多様な考え方を身に付け、私という人間を大きく成長させるきっかけになったと思います。そしてもう一つ、自分の未来を決めるきっかけが教育現場での実習でした。そこで様々な子ども達と触れ合い、教育には私の知らない多角的なアプローチの仕方がある事を知り、私が子ども達に出来ることは何かを明確に考えるようになりました。私はこの1年で、授業や実習、ボランティアを通して様々な交流を行い、自分が成長出来たと思います。将来、私に関わる子ども達の為に、これからも成長を続けていきたいです。



口腔保健学科 2年
永井 智絵里

1年を振り返ってみると、とても濃い1年でした。入学式では、全てが新しいことに対する楽しさと、実習やテストなどの不安も入り混じりながら門をくぐったことを今でも覚えています。前期では、口腔と全身の疾患の関係や、衛生面などの基礎知識を学び、解剖見学実習や、常盤独自の授業「まなぶる▶ときわびとI」を通じて、口腔のことを中心に全身を知り、他職種との連携によって患者さんに寄り添える歯科衛生士になりたいと感じました。後期では、学内実習が始まり、実技・口頭試験があり忙しい日々でした。しかし実習では、できなかったことができるようになったり、応用し考えることができるようになったりと日々成長を実感できることが嬉しかったです。1年生では学内で多くの知識を得ました。2年生ではいよいよ臨地実習があります。学内実習では体験できなかったことを習得し、成長したと感ぜられるよう頑張りたいです。



看護学科通信制課程 2年
原田 江梨子

大きな希望と不安を抱えて入学しました。私にとって、最初の春のスクーリングは、18年ぶりの授業でした。長年の准看護師経験を経て受ける授業は、高卒後に准看護学校で授業を受けていた頃と違い、先生の教えて下さる内容が頭の中にスッと入ってきました。また、久々に見る教科書が臨床体験もよぎって頭に入ってくるのが新鮮で面白く、楽しく学習できました。通信制課程は、年齢も臨床経験も家庭環境も様々な背景の学生が全国から入学し、私もそのうちの一人です。その生活背景にある様々な事情が、学習が進まない要因になることもありますが、「このままではダメだ!」と逆に学習意欲を向上させてくれるものでもありました。逆境にも負けず、その結果の各科目のレポート課題、修了試験の合格が自分へのご褒美だと思っています。私事ですが、今春から娘も看護師になるため進学します。娘より一足先に、看護師資格取得を目指し、もう1年を全力で頑張ります。

実習体験記

臨地実習を終えて



医療検査学科 4年
岡田 妃菜

約2ヶ月間、私は病院で実習をさせていただき、検査における正確性、効率化、患者さんとの接し方など多くのことを学ぶことが出来て、とても良い経験になりました。実習に行く前までは、検査室がどんな雰囲気なのか、患者さんとのように接するのだろうか、きちんと実習についていけるのだろうかという不安感しかありませんでした。しかし、実際に実習が始まると、現場の技師の先生方は皆さんとても優しく、丁寧なご指導をいただいたため、とても楽しい実習でした。私は一般検査に興味があり、実習では様々なデータの見方を教えてもらいました。また、現場の機械を操作させていただいて、より理解が深まりました。生理機能検査では患者さんとの接し方や、検査の意味を理解してもらうための工夫など多くを学ぶことができました。技師の先生方、関わってくださった他の職種の先生方の膨大な知識量に圧倒されつつも、優しくお声掛けしていただいたので理解が深まり有意義な実習となったことに、とても感謝しています。臨地実習で学んだことを活かし、これからの国家試験に向けて勉強に励みます。

臨地実習を終えて



看護学科 4年
花野 美峰

私は半年間、領域別実習を行ってきました。領域別実習では、疾患や年代、価値観の違う様々な方を対象とします。そのため、どの実習もベッドサイドに行き、実際に対象者とコミュニケーションをとることで一人ひとり違った生活背景や思いを知ることができます。実習では、対象者のその思いに寄り添いながら必要な看護について考え、実践していききました。また、対象者が自分の思いを表出してくれるようになったときには、関係性が築けてきたという嬉しさがあります。実習中には、対象者からの「ありがとう」といった言葉や笑顔に励まされたこともたくさんあり、支えになっていました。私は、領域別実習において様々な対象者と関わっていく中で、改めて対象者とその家族に寄り添うことができる看護師を目指したいと考えるようになりました。これからも領域別実習で得た学びを深めていくと共に、発見できた自己の課題の解決に取り組んでいきたいと思っています。

幼稚園実習を終えて



こども教育学科 4年
山口 有希帆

約3週間の幼稚園実習はこれまでの実習と比較すると一番大変でした。毎日の実習を終え、帰宅後には日誌だけでなく指導案を考えたり教材準備をしたりで睡眠時間も短く辛く感じたこともありました。しかし、幼稚園での子どもの笑顔や忙しいのにも関わらず実習生である私に対して丁寧に指導して下さる先生方の優しさに触れ、毎日新たな学びや気づきを得ることができました。実習を終え、改めて幼稚園教諭になりたいという気持ちが一層大きく明確になりました。研究保育では悔いの残る部分もありましたが、「何年やっても、あの場面ではこうするべきだったと思うことが毎日のようにあるけれど、その経験を生かして次に繋げることが大切だから、心配しなくても大丈夫!」という先生の言葉に励まされました。そして、自分が理想とする幼稚園教諭に近づく為に、今できる事を精一杯努めようと強く思いました。これからも目標に向けて日々励んでいきたいと思っています。

小学校実習を終えて



こども教育学科 4年
小野寺 駿

教育実習の日々を振り返ると、毎日が発見の連続であり、勉強になることで溢れていました。想像以上に現場の先生方の仕事は激務でしたが、授業の準備は万全で子どもには常に笑顔で接しておられました。また、一人ひとりの児童に対応した指導法や指導技術の豊かさに圧倒されました。私は実習3日目から授業をさせて頂きました。クラスみんなが理解できる授業をするには①一人ひとりの子どもを理解することが大切である事。②あらかじめ考えたプランを大切にしながらも、その時々の子どもの反応を確かめつつ発問を考えたり授業のペースを考えたりする事。この二つの重要性和大切さを学びました。子どもたちと毎日過ごしていくうちに教師になりたいという気持ちが夢からグッと近づいて目標になりました。教えることの楽しさ、そして何よりも子どもたちの笑顔に元気をもらえる素敵な仕事だと強く感じました。目標を達成するために、子どもたちの笑顔を思い浮かべながら大阪市で現役採用されるように全力で頑張ります。

学生自治会長あいさつ



こども教育学科 3年
高橋 実佑

本年度の自治会長を仰せつかりました。学生の意見に耳を傾け、学生のために最前線に立って動くという大変な名のある立場に就かせていただきました。今後の活動に期待と喜びを感じる一方で、不安も感じています。自治会長として、学年学科を問わず、多くの学生が有意義に交流できるように頑張りたいと思います。地域のみなさまのお力をお借りしながら、自治会メンバーが一丸となって、1年間でできることを精一杯努めますので、よろしくお願いいたします。

ネパール交流20周年の歩み



看護学科通信制課程 教授 **中野 順子**

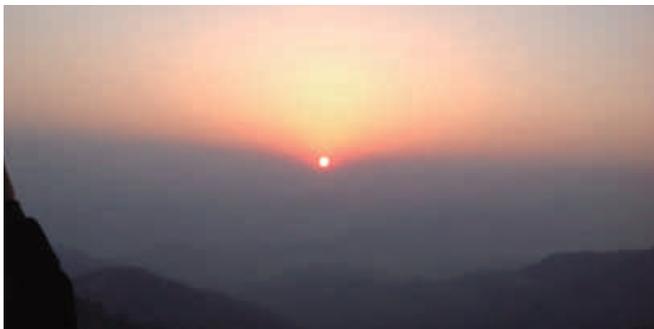
本学とネパールは、1997年、短大であった本学とネパール政府公認NGOハチガンダ福祉協会との姉妹提携によって、ネパールより2名の研修生の受け入れを最初に、翌1998年、学生3名を含む同窓会他の方々9名の派遣を第1回として異文化交流が始まりました。以来、隔年ごとにネパールの学生・社会人と、本学の学生・教職員・後援会・同窓会関係の方々相互訪問し研修を行い、互いの国の文化を感じるという貴重な体験を続けて20年が過ぎました。

私は、通信制課程の教員ですが、通信の学生も2010年第7回の派遣から2名の参加枠を頂き、これまでに4回7名が参加の機会

を得ることが出来ました。学生は其々動機を持っての参加であり、卒業してからの看護師人生に何らかの影響を与えていると、教員としての喜びを感じております。

これまでに引率も含め計6回、今年の3月も卒業生とネパール観光して参りました。何故そんなに好きなの?と問われれば、壮大な山々の自然と、市中に住むごちゃごちゃした人の営みの対比的な刺激と、人々の優しさと生活するたくましさともいうべきでしょうか。次は初心者向けのトレッキングで自然の美しさを肌で感じてみたい、学生もカトマンズだけでなくポカラの自然での異文化も体験出来ればなあ等と勝手に思っています。

最後に、2015年4月のネパール地震の爪痕は3年経ても生々しく、我々が出来る支援は、ネパールを訪れ、泊まり、食し、観光し、買い物をする事という現地の方の言葉が耳に残り、これからも交流と訪問を続けていこうと心に決めています。



ナガルコットの朝日



2015 紅葉の金閣寺 in 京都

本学発ベンチャーの紹介



医療検査学科 特命教授 **西村 直行**

Kten Bio株式会社は、神戸常盤大学初のベンチャー企業として、1年程前(2017年4月)に設立された会社です。この会社の技術的なベースは、私が前職場((株)島津製作所)で開発したAmpdirect技術[生体材料中の遺伝子(核酸:DNA/RNA)を抽出・精製することなく、直接(そのまま)増やして検出する技術]と環境や材料(食品や生体由来の)から簡便・迅速かつ高効率にウイルスを濃縮する技術にあります。前学長の上田國寛先生を

初めとした多くの方々のご尽力のもと、2年程前から(株)日本食品エコロジー研究所との産学連携でこれらの技術をさらに発展させてきました。そして、環境中のノロウイルスを検出するための試薬キットを製品化する目途が立ったのを契機に、Kten Bio(株)を設立しました。社名は、「神戸」、「神戸常盤大学」、「日本食品エコロジー研究所」、「西村」から一文字ずつ取って命名しましたが、大きな飛躍という意味での「Kten越え」も意識しています。今後は、微生物(特に病原性の)遺伝子を検出するための製品やサービスを通して、世の中の安全・安心に資する会社としての事業拡大を図ると共に、本学の教育面での新分野への展開の一助になればと存じておりますので、今後ともご支援の程よろしくお願いたします。



当社技術の学生へのレクチャー風景



ノロウイルスに汚染されていないかを検証するための検体採集風景



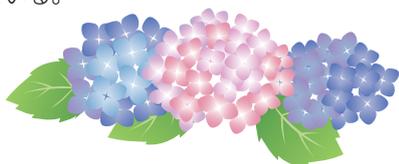
研究ノート

悪性中皮腫という病気をご存知ですか？

医療検査学科 教授 島 榮



我が国で戦後復興、高度成長期の時代に使用したアスベストは1,000万トンに達している。1970年～1990年で年間約30万トンのアスベストが輸入され、8割以上は建材に使用された。国民がアスベストによる健康被害を強く認識したのは、2005年6月に「クボタショック」と呼ばれる出来事で、尼崎市石綿工場に勤務する多数の従業員やその家族に中皮腫が発生し社会問題化した。これらに関し、国の速やかな法の制定を経て、現在石綿による健康被害の救済に関する法律(いわゆる「アスベスト新法」)として、アスベスト関連肺癌と中皮腫の患者さんの救済が行われている。日本肺癌学会では、悪性中皮腫細胞診評価ワーキンググループが設置され、中皮腫に造詣の深い日本肺癌学会会員と共に、細胞検査士の私も加わった。細胞学的に中皮腫を早期診断することで、完治可能な疾患と考えられ、細胞検査士の知識向上が必要不可欠である。独立行政法人環境再生保全機構が主催する中皮腫細胞診実習研修会に、私は年3回講師として活動を行っている。



研究で得た知見は教育観や人生観を支える

看護学科 助教 伊東 美智子



1つ目の研究は、私が担当する母性看護学の病院実習で、学生が分娩見学に入らせていただいた時の想いを聴き取り、見学中の心境や教員等に求めている支援について明らかにしています。その結果から、学生は分娩への期待や嬉しさの反面で不安も覚え、「自分に何ができるのか」と葛藤していることが分かりました。これは一見するとマイナス要素に見えますが、この自問自答が専門職を目指す“人”としての成長に繋がると考えられます。そこから教員として、学生個々に合わせた具体的な言葉や行動での支援を心掛けたいです。

2つ目は、離島の医療機関に勤務する島外出身の看護師を対象に、現地に定着するまでの過程を明らかにする研究に取り組みました。昨年までで中国、四国、九州・沖縄地方の離島を訪問し、12人の看護師から聴き取りを実施しました。そこから、赴任当初の戸惑いは仕事関連だけでなく、新しい土地の気候風土や文化適応に関連することも大きく、行き詰まって独りで悩む時期があるとのことでした。しかし多くは、職場や地元の人に悩みを打ち明けることで心情が上向きようになり、そこから患者への看護にも思いが込められるようになっていました。また、地元の伝統芸能や歴史的文化財に触れることで、地域に溶け込めて自分の居場所を見つけ、方言を患者とのコミュニケーションの糸口にすることで、次第に離島医療機関に勤務する看護師として定着していることが明らかになりました。

2018年度 学外オリエンテーション

新入生がよりよい学生生活のスタートが切れるよう、新入生同士や上級生、教職員との親睦・交流を目的として毎年行われています。今年度は4月5日から1泊2日で、昨年と同じ淡路夢舞台国際会議場に隣接するウェスティンホテル淡路で開催されました。

全新生321人、教職員84人、自治会やボランティアの上級生61人の総勢466人で、朝9時にバスで大学を出発しました。現地到着後、学科ごとに記念撮影を行い、開会式に続いて先輩学生たちが企画運営に携わった「学生によるトキワシンポジウム」が開かれました。ここでは各学科の学年ごとのカリキュラムの概要や、大学内外の生活情報、ボランティアや海外研修などの紹介がありました。午後からは学科ごとに分かれて新入生と教員との交流が行われました。医療検査学科、看護学科、こども教育学科では色々趣向を凝らしたゲームや読書感想会(こども教育学科)で盛り上がりました。口腔保健学科では歯科衛生士として活躍されているOGから学生時代の過ごし方や歯科衛生士の仕事についてお話を聞くことができ、学生たちは大いに刺激を受けました。翌日は4学科混

学生部長
医療検査学科 教授 栢倉 匡文



成の5、6人のチーム編成で広い庭園を舞台にフォトコンテストが行われました。どれもアイデア満載の素晴らしい作品ばかりでした。

会場を出発する頃に雨が降り始めましたが、全員が体調を崩すことなく無事に日程を終えることができました。いよいよ本格的に授業が始まります。神戸常盤大学の学生としての自覚と誇りを持って、充実した学生生活を送ってほしいと思います。



各学部別レクリエーション

金沢会場でスクーリングを開講! 看護学科通信制課程

これまで、北陸方面のみなさんはスクーリング(面接授業)を神戸や東京で受講していました。沢山のレポートやテスト、日々めまぐるしく時間が過ぎていく状況の中で、スクーリングのための宿泊先や交通手段の手配、荷物などの準備は経済的にも時間的にも大変でした。この春から、金沢でスクーリングを開講し、

見学実習も近隣の病院や訪問看護ステーションで行うことが出来るようになり、みなさんの負担軽減が可能となりました。今年は、北陸方面から約30名の方が入学され看護師の資格取得をめざし、学習に励んでいます。



ときわ幼稚園通信



平成30年4月11日、第49回入園式を行いました。今年度は3歳児8名、4歳児2名の計10名の子どもたちが入園しました。入園当初は大好きなお母さんと離れるのが淋しくて涙を見せる子どももいましたが、少しずつ幼稚園で友達や先生と過ごすことを楽しめるようになってきました。

年中児、年長児は1つ大きくなったことが嬉しいようで、「小さい友達のお世話をしよう」「分からないことがあったら教えよう」と意欲満々です。進級当初は小さい友達へのかかわり方が分からず、戸惑っていた子どもたちですが、日を追うごとにかかわり方が分かってきたようで、年少組の子どもがどこに並べばいいのか困っている「こっちだよ」と優しく声をかけ、手を繋いで連れて行く姿が見られるようになりました。異年齢児とのかかわりの中で、小さな友達にどうしてあげたらいいかなと考えたり、年中児、年長児に憧れの気持ちをもったりしながら過ごせるよう、支えていきたいと思えます。

ときわ幼稚園 教諭
恩田 保子



入園式

衛生技術科 12期生 岡部 美智



あうん 阿吽の呼吸

私は仕事とは別にドッグアジリティチームに所属しています。ドッグアジリティとは、犬と人間が調和をとりながら、コース上に置かれたハードル・トンネル・シーソーなどの障害を定められた時間内に、着実に次々にクリアしていく競技で、いわば犬の障害物競争です。犬との「阿吽の呼吸」で初めてクリア出来るドッグスポーツです。

競技中、犬は人と視線を交わし、瞬時に指示を理解して反応します。犬との信頼関係や一緒に目標に向かいゴールした際には、大きな充実感・達成感を感じることが出来ます。

この「阿吽の呼吸」は仕事にも生かされています。ドッグアジリティを始めてから、仕事を進める中で、人間関係においても、日頃から良き信頼関係が保てるようになり、医師や同僚と多くを話さなくても、視線を交わし、うまく助けあって仕事ができるようになったと思います。

みなさんもドッグアジリティを始めてみてはいかがでしょうか？ 運動と共に「阿吽の呼吸」が習得できるかも。



アジリティ



神戸常盤大学短期大学部歯科診療所のご案内 ☆あなたのお口の健康をまもりまします☆

〈診療時間〉

火曜日～金曜日 10:00～12:00/13:00～16:00

〈診療内容〉

歯磨き指導、歯のお手入れ、義歯のお手入れ、フッ化物塗布、むし歯や歯周病の検査、お口の機能向上、お口の健康相談

“あなたに合ったお口の健康を保つ方法をお伝えします！”

小さなお子さまから、どなたでもお越しく下さい”

〈費用〉

基本料金500円

〈神戸市在住の方〉

- ◆神戸市妊婦歯科健康診査
- ◆神戸市40歳総合健診歯周疾患検診
- ◆神戸市50歳歯周疾患検診
- ◆後期高齢者(75歳以上) 歯科健康診査

を行っております。これらの健診は無料です。

〈予約方法〉

078-611-1821 (神戸常盤大学 庶務課)

078-611-1831 (神戸常盤大学短期大学部歯科診療所)

予約の上、お越しく下さい。



平成30年度 オープンキャンパスのお知らせ

〈日 時〉 6/16(土)、7/15(日)、8/4(土)、9/1(土)
13:00～16:30

〈内 容〉 学部・学科紹介、キャンパスツアー、体験学習、模擬授業、個別相談等

〈参加方法〉 申し込みは不要です。(受付12:30～)

〈場 所〉 本学キャンパス(無料送迎バスも運行します)
詳しくはHPで!

★看護学科通信制課程 総合説明会を同時に開催しています。

★見学・入試に関する事などのご質問は遠慮なく入試広報課にお問い合わせください。

〈問合せ先〉 入試広報課(078-611-1833)
nyushi@kobe-tokiwa.ac.jp



Kobe-Tokiwa

財務情報につきましては、本学園のホームページをご覧ください。

発行・編集 神戸常盤大学 広報委員会 〒653-0838 神戸市長田区大谷町2-6-2 ☎(078)611-1821(代)